SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

英語科授業案：教科で育みたい人間像「世界の人々とつながる人」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小池, 智美, Christenson, Bjorn メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00029506

英　語　科　授　業　案

教科で育みたい人間像　「世界の人々とつながる人」

授業者　小　池　智　美
Bjorn Christenson

1　日　時　令和４年10月14日（金）　第２時　11：30～12：20
2　学　級　３年Ｄ組　（３年Ｄ組教室）
3　題材名　**These Are My Essentials　―自分らしさがつまった自己紹介―**

4　本題材で願う学び

動画作成ではコミュニケーションをとる相手の反応が見えないことに気をつけながら、自分の大切なものを紹介する動画を作成する活動を通して、大切なものやそのものに対する思いを伝えられるような英語表現の幅を広げ、伝え方について深めることができる。　（学習指導要領との関連：⑷話すこと［発表］　イ）

5　題材観

⑴　「これまでの子どもの学び」

①「伝わりさえすればよい」からの脱却

１年時のコミュニケーション活動では、知っている英単語や英語表現が多くなかったため、授業後の感想では、「とにかく通じればよい」や「関連した単語を並べたりジェスチャーを使ったりすれば何とか通じる」という内容が多かった。しかし、コミュニケーション活動を重ねていくと、子どもたちの英語表現に対する意識が変わってきた。今までは通じれば何でもよいという意識だった子どもたちは、活動の中で聞き手を経験することで、「相手がわかりやすい表現を使えることができれば、聞き手はより自分の話に興味をもってくれる」「相手に誤解されないように言いたいことが正確に伝わるような表現を使いたい」という意識に変わってきた。

②Learn as you use, use as you learn

本校英語科では、自分の考えや思いを英語で言いたいという必要性の中で英語表現を学び、学びながら英語表現を使うことを大切にしている。“Learn as you use, use as you learn”（言葉は使いながら学び、学びながら使う）と言われるように、言葉は使う中で学ぶべきであり、同時に学ぶから使えるようになるとされている。各題材では、子どもたちが自分の考えや意見を英語で伝えたいという必要感のある中でコミュニケーション活動を行ってきた。しかし、その活動を行う中では、言いたいことを伝えたいのに、どのように英語で表現すればよいのかわからないこともある。

そこで、活動終了後、言いたいことを言えるようにするために、「言えなかったシリーズ」という英語表現を吟味する時間を設けてきた。言いたいことを同じような意味で、既習の単語や表現を使い、表現する工夫を繰り返し行ってきた。時にはALTから的確な表現を教えてもらいながら英語表現の幅を広げてきた。子どもたちは、言いたいことをよりシンプルにしたり、既習単語や表現を使って言い換えたりするなどの工夫をすれば言いたいことが言えるということを学び、言いたいことを英語で伝えることに自信をもつことができた。このことにより、たとえ言いたいことが言えない瞬間がきたとしても、伝える内容の精査や表現の吟味を行い、粘り強く伝えようとする姿勢を身につけてきた。

以下は「言えなかったシリーズ」に対する子どもたちの感想・意見である。

- 「言えなかったこと」をどのように表現できるのかはもちろん、それ以外の表現や単語を知ることができて、使える単語や表現が増えていく感覚がある。
- 「言えなかったシリーズ」の重要性を感じている。微妙な違い（単数形なのか複数形なのか、aを使うのかtheを使うのか、go to grandma’s houseだと誰の祖母の家に行くのかわからないなど）までも教えてもらうことができる。
- 「言えなかったシリーズ」をやった後に会話をすると、話せるようになってきたなと感じる。新しく学んだ表現を用いて会話をすると、会話がスムーズに進んで話が盛り上がる。自分の伝えたいことがしっかりと伝わって、相手の言いたいこともよく理解できると会話が楽しいと感じる。　など

このように、子どもたちは英語で自分の言いたいことを伝えることに粘り強さと自信を身につけ、コミュニケーション活動に取り組んでいる。

③「よりよいコミュニケーション」における話し手と聞き手のそれぞれの役割

子どもたちは伝えたい内容があれば、何としてでも伝えようと努力する。人にはもともと自己を表現したいという欲求があるため、必死に伝えようとし、伝えることに深い喜びを感じる。また、考えるべき内容があるときには、自分なりの考えや意見をもつだけでなく、他の人はどのような考えや意見をもっているのかを知りたくなる。コミュニケーション活動では、子どもたちの「伝えたい」「知りたい」がベースになるような題材を重ねてきた。「伝えたい」「知りたい」が達成されれば、コミュニケーションはより充実したものになると子どもたちは考えていた。しかし、さまざまな話題についてのコミュニケーションを多様な形態で経験していくうちに、コミュニケーションは一方的ではなく、その場にいる全員が楽しむことのできる工夫をしなくてはならないことに気がついた。そのためには、話し手も聞き手も互いを思いやり、気遣う努力が必要である。話し手は聞き手への配慮、例えば聞き手が理解できるように伝える内容をシンプルにしたり、できるだけ簡単な単語を使ったりするなど相手を意識することが大切であることを知った。聞き手は、話し手の話を聞き、反応したり質問したりすることでより詳しい話を引き出せることや、共感や反対の意見を述べることで会話の内容がより深まったり、互いに新しい意見や価値観を知ったりするきっかけになることに気がついた。聞き手と話し手の立場を入れ替えながらコミュニケーションを続けていくことで、互いの理解が深まり、よりよいコミュニケーションに近づいていけることも学んだ。以下は、コミュニケーション活動を重ねてきた子どもたちの「よりよいコミュニケーション」に対する考えである。

- コミュニケーションとは接客をするのと同じだと考える。接客では、自分が強く出すぎてもだめだし、相手のことばかり聞いているだけでもだめである。自分の言いたいことは伝えるし、相手の言いたいことも理解するべき。そのために、互いの意見を述べたり、尋ねたりしていくことが必要。
- 最初は伝えたいことをとにかく言えば、コミュニケーションをとることができると考えていたが、互いを理解することがコミュニケーションの目的であると考えるようになった。聞き手が自分のことを理解してくれるようにするために、英語表現はもちろん、相手にとって聞きやすい発音も身につけたい。
- 中学校に入ってからは、相手の話を聞くだけではだめで、きちんと反応することの大切さを知った。反応があれば、話し手は「聞いてくれているんだ」とか「自分の言いたいことが伝わっている」と安心感をもち、コミュニケーションをとることが楽しくなる。互いを支え合うことが大事。　など

④「よりよいコミュニケーション」をめざす中で生まれるコミュニケーションの楽しさ

上述したように、コミュニケーションに参加している全員が楽しむことも「よりよいコミュニケーション」の一つであると子どもたちは考えている。そのためには、コミュニケーションに参加している全員が考えや意見を言い合う中で、互いの人となりをより理解していくことが必要であるととらえている。以下は、隣の席のクラスメートとペアを組み、“What do you do in your free time?” というテーマでスモールトークを行ったときの子どもたちの感想である。

- テーマの質問だけを聞いたり答えたりしているだけでは、おもしろくないと思った。ペアの子は本が好きなことを知っていたので、本の話をしたら話が盛り上がった。私も本をよく読むので、お互いの好きな本の話をした。お互いに共感できるところがあって楽しかった。
- My partner and I watch YouTube often. 話が進んでいったら、お互い知っているYouTuberが出てきた。Who is your favorite member? って聞いて詳しく話しができて、とても盛り上がって楽しかった。　など

互いに楽しいコミュニケーションをつくるためには、相手の好みや興味があることを知っていると、関連する話題により、話が盛り上がることを子どもたちは経験した。また、会話が進むにつれて自分と相手の共通点や初めて知る情報を得ることができ、そのように相手の人となりを深く理解できることは、コミュニケーションの中で生まれる楽しさであると気がついた。

⑵ “These Are My Essentials” の価値

①自分の大切なものをきちんと伝える

自分の思いがつまっている大切なものについて話す時は、母語で話をするときであっても、あまりの楽しさに話が止まらないことがよくある。子どもたちにとって、大切なものやそこにこめられた強い思いや思い出について英語で語るという活動は、ワクワク、ドキドキするものであるだろう。「伝えたい」と思っている子

どもたちは、伝えたい内容をどのように英語で表現できるのかについて考え始めるだろう。これまでの授業を通して、言いたいことをどのようにすれば言えるのかを考え、英語表現を吟味したり、表現の仕方を工夫したりすることで、言いたいことを諦めずに伝える方法を自分のものにしてきた。また、語彙や表現方法も豊かになり、言えることが確実に増えてきた。言いたいことをどのようにすれば言えるようになるのかと英語表現の吟味を繰り返し行い、多様な表現の中から選択して、自分の思いを伝えることができるようになった。そしてなにより、自信をもって言いたいことを英語で言えるようになってきている。そのような子どもたちだからこそ、自分の大好きで大切なものについて存分に語るこの題材には大きな価値がある。自分の思いを伝えることに妥協はできないと考え、どのような表現を使えば言いたいことを伝えることができるのだろうかと粘り強く吟味したり、大切なもののよさを伝えるために詳しく紹介しようとしたり、堂々と語ったりする姿が期待される。

②クラスメートの人となりを深く知る

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校が休校となり、オンライン授業で子どもたちが画面上に集まった。画面上の子どもたちを見ると、それぞれの顔の奥に部屋のようすが見えたり、飼っているペットと一緒に登場したりするなど、学校ではうかがうことのできないようすを目の当たりにした。部屋の中にあるクラスメートが大切にしているものに対して興味をもつ子どもたちも多くいた。「〇〇くんの部屋に、ガイコツの人形がある！意外！」「〇〇ちゃんの犬かわいい！初めて見た！何ていう名前なのかな？」「〇〇くんはポケモンのカードたくさん持っているって言っていたけど、あんなにたくさん持っているなんて……、一体全部で何枚あるの？」など子どもたちは初めて見るクラスメートの大切なものに対して興味を示し、クラスメートの大切なものについて「知りたい！」という声が多く聞かれた。子どもたちは、コミュニケーション活動の中で、クラスメートの意外な一面を知ったり、その子が興味あることをより深く知ったりすることで、その子の人となりについてより深く理解する楽しさを実感している。そのような子どもたちはクラスメートの大切なものはどのようなもので、なぜそのような思いをもっているのだろうなどと、クラスメートをもっと「知りたい」という思いに駆られるだろう。クラスメートの大切なものを知ることは、その人となりをより理解することにつながり、中学校生活を共に送る大切な仲間としての意識が自ずと高まっていくだろう。そこで、クラスメート同士の理解をより深めることに価値があると考え、作成した動画を公開する相手をクラスメートとする。

⑶　動画ならではのよさ

子どもたちにとっては動画を見ることも作成することも生活の一部であり、動画を作成する活動を授業に取り入れることは子どもたちにとって取り組みやすいことであると考えた。また、動画を用いて大切なものを紹介することには以下のような利点があると考えている。

授業者は、「自分の宝物」という題でShow and Tellを行う活動を設けたことが多々ある。そのときも子どもたちは大切な宝物をクラスメートに「知ってもらいたい」「わかってもらいたい」という強い思いで活動に取り組んでいた。しかし、宝物が大きいぬいぐるみや、飼っている犬などのように学校に持ってくることが難しいこともあった。動画であれば、大きいぬいぐるみやかわいい犬のようすを家で撮ることができるため、子どもたちの「クラスメートに実物を見せたかったのに」という悲しい思いを解消することができるだろう。

動画には繰り返し撮影したり、見直したりすることができるという利点もある。宝物について英語で話す自分を画面上で見てみると、見ている相手により伝わりやすい英語表現を吟味したくなったり、大切なものに対する自分の熱い思いが伝わるような伝え方を工夫したくなったりするなど、子どもたちは、動画をよりよいものにするためにさらにブラッシュアップしようとするだろう。動画を公開する相手がクラスメートであることから、子どもたちはクラスメートにとって理解しやすい英単語や表現を選択していくだろう。また、自分の大切なものについて話すときには、聞き手であるクラスメートからの反応がないため、確実に伝わるように、英語表現をより磨こうとするだろう。また、動画を見るクラスメートの理解を補足するために、動画編集の際にテロップを補助的に使う子どももいるかもしれない。このように、同世代のクラスメートが興味をもつような伝え方や内容について熟考していくだろう。

さらに、子どもたちにとって、大切なものについて語るようすを動画に撮ることは、教室でクラスメートの前で発表することよりもカジュアルに取り組むことができる発信方法である。発表でクラスメート全員の前に立ち、最後列にいるクラスメートにまで話す声が明確に聞こえるようにしたり、大切なものがはっきりと見えるように気を配ったりしながら話す中では、大切なものについて心から楽しんで話すことは難しいだ

ろう。動画作成であれば、よりナチュラルに自分の大切なものについて思う存分語ることに集中できるだろう。

⑷　本題材で願う子どもの姿

①今だからこそできる自分らしさがつまった自己紹介

１年生の題材で、自己紹介活動を行うことはよくあるだろう。自己紹介では、自分のことを英語で伝えることに楽しさを感じ、伝わったという実感を得ることができるため、子どもたちにとって意味のあるコミュニケーション活動である。しかし、１年時に取り組んだときには、言いたいことはたくさんあるが、表現するための単語や表現が多くないため、伝えることを諦めたり、もどかしさを感じたりしていた子どもは少なくなかっただろう。コミュニケーション活動を重ね、３年生になった今だからこそ、言いたいことを言えるようにしてきたという経験と自信を背景に、本当に言いたいことを伝えようと粘り強く挑戦していく姿が期待できるだろう。例えば、１年生で行った自己紹介では、「ずっと犬を飼いたかったけど、親がアパートだからだめだって。でも一軒家に引っ越して犬が飼えるようになったから、ついにタロウという名前のかわいい犬を家に迎えることができて、本当にうれしい」という本当に言いたい思いを使える英語表現が少なかったために伝えることができず“I like dogs. I have a dog. Its name is Taro. He is cute. I'm happy.”という淡々とした説明で終わっていた子どももいただろう。しかし、言いたいことを言えるようになるまで挑戦したり、「言えなかったシリーズ」で表現を吟味したりして、表現の幅を広げてきたため、本当に言いたい「ずっと飼いたかった」や「一軒家に引っ越して、犬が飼えるようになった」などの気持ちや理由についても今では言うことができるようになっている。そのため、大切なものを紹介する活動により楽しんで取り組むことができると考えている。また、動画作成に挑戦していく過程では、どのような英語表現を使えばよいのかという疑問に出会うだろう。そのようなときには、今までの経験に立ち返り、内容をシンプルに言い換えたり、英語表現を吟味したりするなどして粘り強く、自信をもって英語で伝えようとする姿にも期待している。

②相手を意識したコミュニケーション動画版について考える

子どもたちは自分の大切なものを「伝えたい」という強い思いで本題材に取り組むだろう。しかし、子どもたちはこれまでの経験から、「伝えたい」という思いが一方通行であっては意味がなく、相手に伝えたいことと全てを理解してもらって初めて達成感をもつことに気づいている。これまでは、コミュニケーションの相手が「伝わっているよ」という反応を示してくれることで安心してコミュニケーションを進めていくことができた。しかし、本題材では、動画を作成し、クラスメートに公開する。自分の大切なものについて話をしているときには、動画を見ている人から「伝わっているよ」という反応を得ることは難しいだろう。そのような中であっても自分の動画を見ることになるクラスメートと動画を通して、どのようなコミュニケーションをとるのかについても考えを巡らせてほしい。まず、クラスメートにとって理解しやすい表現を使うことを意識したり、自分の動画を楽しんでもらうために内容や伝え方にも工夫したりする姿が見られることを願っている。例えば、漫画ONE PIECEの大ファンである子どもがONE PIECE愛を語る際に、「ただ“I like ONE PIECE”と言うだけでは自分がどれだけ好きなのか伝わらない。シンプルにクラスメートがわかるようにI love ONE PIECEと言えば伝わるはずだ。言うときには、“I L♡VE ONE PIECE”と言ってLOVEを強調すれば、相当好きだということを理解してくれるだろう。自分の周りにたくさんのグッズを置くことで、興味をもってもらう工夫ができるかもしれない」などのように、自分の動画を見るクラスメートに自分の大切なものを知ってもらいたい、興味をもってほしいと願うだろう。そして英語表現、伝え方、興味をもたせる工夫などについて動画を見るクラスメートを意識しながら動画を通したよりよいコミュニケーションについて考えていく姿が見られることを期待している。

③互いの人となりを知り、人とつながろうとする

動画作成や鑑賞を経て、クラスメートの人となりを知ることで、互いの距離はさらに縮まるだろう。子どもたちは自分の大切なものを紹介する動画で、生き生きとした表情で自分の思いや思い出を語るだけでなく、内に秘めていたことを語ることもあるだろう。動画を見たクラスメートは、今まで知らなかった一面を知ることで共感したり興味をもったりして、そのクラスメートともっと話したい、仲よくなりたいと願うだろう。このような豊かな人間関係が築かれ、仲間とコミュニケーションをとる場面が授業中はもちろん、日頃の学校生活の中でも多く見られることを期待している。また、卒業後にそれぞれの別の道に進んでいく子どもたちが、新たな場所であっても、相手が誰であっても自分の本当に言いたいことを語るだけでなく、相手の人となりを知ろうとすることで、豊かな人間関係を築こうとすることを願っている。

6　題材構想（全10時間）

⑴　What is the thing you can't live without? Talk about it!（２時間）
⑵　動画構想を練ろう（２時間）
⑶　動画撮影の練習をしよう（２時間）
⑷　撮った動画を見てみよう（１時間）
⑸　もっと魅力的な動画にしよう（２時間）
⑹　動画鑑賞を楽しもう（１時間）

7　題材構想にあたって

本題材で願う子どもの姿を生み出すためには、子どもたちが生き生きと本題材に取り組む姿勢が必要であり、まず本題材“These Are My Essentials”との出会いが重要であると考えている。本題材との出会いのきっかけとして、ペアで互いの大切なものについて語り合うスモールトークを行う。すると子どもたちは、自分の大切なものについて考えて話すことを楽しんだり、ペアの大切なものについて話を聞いたりして、ワクワクするだろう。そこで授業者は、子どもたちに歌手チャーリー・プースが大切にしているものについて語る動画を子どもたちに見せる。大切なものについて楽しそうに、自然体で話すチャーリー・プースを見て、子どもたちは大切なものについて話すことと人の大切なものについて聞くことの楽しさに再び心躍らせるだろう。また大切なものの説明を聞くことで、チャーリー・プースの人となりにふれ、よりチャーリー・プースに関心をもつだろう。そのような子どもたちに授業者は大切なものについて語る動画を作成し、クラスメートと見合うことを提案する。本題材と出会った子どもたちは「自分の大切なものを伝えたい」と思い、さまざまな考えをもつだろう。「チャーリー・プースのように大切なものにつまっている思いや思い出を語りたい。誤解なく伝えるためにはどのような英語表現を使えばよいのだろうか」「動画を見ただけだが、チャーリー・プースのことをもっと知りたくなった。動画を見る人が、自分や自分の大切なものに興味をもってくれるようにするために、どのような内容を話せばよいのだろうか」「大切なものについて一人語りしていたが、見ている人と話しているような感じでもあった。他にも同じような動画があれば、参考にしてどのような伝え方をすればよいのか考えたい」などのように子どもたちは多岐にわたる思いを抱き、自ずと問いをもち追求していくだろう。動画作成に思いが膨らんでいる子どもたちが、よりよい動画を作成することができるように十分な時間（７時間）を確保する。子どもたちは思う存分追求する中で、自分の大切なものやそのものに対する思いについてどのような英語表現を使えばよいのか試行錯誤したり、表現を吟味するために「言えなかったシリーズ」を活用したり、ALTのアドバイスを取り入れたりしながら表現を磨いていくだろう。また、動画を見るクラスメートが理解しやすいような内容にこだわる子どもは、内容の構成を変えたり、伝え方を工夫したりしながら準備を進めていくだろう。４時間が経過し、動画撮影の準備と練習に没頭している子どもたちに、一度立ち止まり、自分の追求していることがよりよい動画に近づいているのかを確認する時間を設ける。授業者は、互いに動画を見合うことを提案し、試しに動画を撮ってくるように伝える。動画を見合う時間を１時間設定する。子どもたちは撮った動画をクラスメートと見合うことで、自分の動画の修正点やよさに気がつくことができるだろう。さらに、クラスメートからの客観的アドバイスを動画の改善に生かしたいと考えるだろう。修正点が見つかった子どもたちは、直すだけではなく、直した箇所が自分のねらいと合っているのかを確認したくなることが予想されるため、修正する時間を２時間設定する。クラスメートの反応を想像しながら試行錯誤を重ねてつくりあげた動画をクラスメートに見てもらいたいと思うのは自然なことであろう。そこで、授業者は完成した動画をGoogle Classroomにアップし、クラスメートの動画を見合うことを子どもに伝える。クラスメートの動画を見た子どもたちは「自分の動画をクラスメートはどのように感じたのか知りたい」「クラスメートの動画を見て感想を伝えたい」などの思いをもつだろう。この思いを叶えるために、授業者は子どもたちにコメント欄を活用して感想を伝えることを提案する。クラスメートからのフィードバックをもらった子どもたちは自分の動画について評価し、動画作成の過程についても振り返るだろう。

以下は本題材の中で予想される子どものあらわれである。

⑴ What is the thing you can't live without? Talk about it!（２時間）

まずペア活動で“What is the thing you can't live without?”という質問に対してスモールトークを実施する。子どもたちは、自分にとって「なければ生きていけないものとは何だろう」と自分に問いかけるだろう。この活動は自分の大切なものについて考え始めるきっかけとなるだろう。また、ペアと互いの大切なものについて英語で話してみると、活動中に言いたかったのに言えなかったことが出てくることが考えられる。言えなかったことがあった場合は表現を吟味する時間を設ける。より適切な表現がある場合はALTからアドバイスをもらう。言えなかったことが言えるようになってから、ペアを変えて同じ内容でスモールトークを行う。ここでは自分の思いや考えを英語で伝えることができるようにしたい。子どもたちは大切なものについての説明やそのものに対する思いを英語で伝えられたことに達成感をもつだろう。また、大切なものについて語ったり、クラスメートの大切なものを聞いたりすることで、「自分の大切なものを知ってもらえて楽しかった」や「友達の意外な一面を知ることができた。もっと話を聞きたい」などのように、大切なものについて話すことにも聞くことにもワクワク感をもって取り組むだろう。

２時間目では、“What is the thing you can't live without? This time choose a new thing. I mean choose the different thing from last time.”と伝える。子どもたちはまた、別の大切なものとは何だろうかと自分に問いかけるだろう。答えが出たところで、ペアとスモールトークを始めていく。新たな大切なものについて話したため、また言えなかったことがあったかもしれない。そこで、授業者は子どもたちの言えなかったことを拾い、表現の吟味とより適切な表現の確認を行う。その後ペアを変えて、同じ内容でスモールトークを行う。ここでも、言いたいことが完全に言えるようになることをめざす。その後、授業者は子どもたちにとって馴染みのある歌手チャーリー・プースが自分の大切なものについて語る動画を見せる。動画を見た子どもたちは次のような感想をもつだろう。「チャーリー・プースの曲の作り方がすごかった！名曲はあのような感じで生まれたのか！」や「チャーリー・プースが大切にしているスマホは自分のものと全く同じものだ。親近感が湧いた」などと、チャーリー・プースの人となりを知って、もっと彼のことを知りたくなったり、共感したりするなど子どもたちはさまざまな反応を示すだろう。ここで授業者は子どもたちに、チャーリー・プースの動画と同じように、大切なものについて語る動画をつくり、クラス内で公開することを子どもたちに伝える。子どもたちは「やってみたい」「伝えたい」というワクワク感をもつのと同時に「自分の大切なものは何だろうか」「自分の大切なものをどのように英語で伝えようか」など、よりよい動画を作成するために必要なことを自ら考えていくだろう。

⑵ 動画の構想を練ろう（２時間）

動画作成にワクワク感をもっている子どもたちは、自分の大切なものは何かについて思いを巡らせ、どのような英語表現で伝えるのがよいのかについて考えていくだろう。自分の英語表現がクラスメートに伝わるかどうか仲間に確認したり、より適切な表現がないかALTに質問したりして、表現を吟味していくだろう。また、動画を見てくれるクラスメートにとっても楽しい動画になるように動画の構成に気をつけ、子どもたちの相手意識が感じられる発言や「追求の記録」から子どもの学びを共有していくことも大切にしていきたい。

⑶ 動画撮影の練習をしよう（２時間）

自分の大切なものについてどのような表現を使えばよいのか考えがまとまってきた子どもたちは、実際に動画を撮影したり、つくった表現を読んだりするなど動画撮影に向けて、英語で大切なものについて話すことを試したくなっている。試しに動画を撮影し、大切なものについて語る自分の姿を見てみると、子どもたちはさまざまなことに気がつくだろう。「英語表現はいいけど、ゆっくりはっきりと話さないと、動画を見ている人には伝わらない」「思っていた以上に話し方が単調すぎる。もっとイントネーションに気をつけないと相手に自分の思いが伝わらない」などと伝え方について改善の余地があることに気がつくだろう。クラスメートやALTにアドバイスをもらい、自分の考えや思いが伝わるような伝え方について追求していくだろう。授業者は、動画撮影を各自で行ってくるように伝える。

⑷ 撮った動画を見てみよう（１時間）

撮影した動画を数名のクラスメートと見合うように伝える。クラスメートの動画を見た子どもたちは、感想やアドバイスを伝え合うだろう。「○○への愛が伝わってきた！私も○○が好きだから後で話そう」「△△の説明が自分にとって難しかった。あまり知らない人のためにもう少し説明を加えてもいいかも」などの感想や意見が出されるだろう。また、クラスメートの動画を見て、自分の動画にも取り入れたい表現や伝え方に出会う子どももいるだろう。さまざまな感想やアド

バイス、刺激をもらった子どもたちは自分自身の動画をよりよくしようと改善を始めるだろう。

⑸　もっと魅力的な動画にしよう（２時間）

授業者が動画提出の期限を伝えると、子どもたちは前時までにクラスメートやALTからもらった改善策を検討し、自分の動画に役立てようとするだろう。子どもたちは動画撮影に向けて、もう一度クラスメートに動画を見てもらったり、自分の意図や気持ちが正確に伝わる表現についてALTに聞いたりするなどして動画を仕上げていくだろう。また、見てくれるクラスメートにとっても興味深い動画を作成するために、「テロップを使ってよいか」「動画の中で説明する自分に、質問を投げかける人が登場しても大丈夫か」「自分が話しているときBGMを流してよいか」などと授業者に質問をしてくるかもしれない。そのようなときには、子どもたちの意欲を称賛し、自分らしさがつまった動画を作成するように伝える。

⑹　動画鑑賞を楽しもう（１時間）

自分らしさがつまった動画を撮り終えた子どもたちは、早くクラスメートに見せたいという思いでいっぱいだろう。動画をGoogle Classroomにアップし、クラス内で見合う。クラスメートの動画を見た子どもたちは、感想を伝えたいと強く思うだろう。また、動画を見たクラスメートがどのような感想をもったのか知りたくなるだろう。そこで、授業者は英語でのコメントをGoogle Classroomにアップするように伝える。クラスメートの感想を読んだ子どもたちは「自分の考えや思いが伝わってうれしい」「自分らしさ全開モードで話したけど、クラスメートが受け入れてくれてよかった」など幸福感や達成感をもつだろう。題材の終わりには、大切なものについて伝えることができたという充実感とクラスメートのことを深く知ることができたという親近感をもち、クラスメートとのコミュニケーションをより楽しむことができるようになるだろう。

本題材終了後、自分の思いを伝えたり、相手の人となりをより理解したりすることで、豊かな人間関係を築くことができることに子どもたちは気がつくだろう。子どもたちには、新しい環境においても豊かな人間関係を築こうとする人であってほしい。また、大切なものについて英語で多くを語ることができたという自信をもった子どもたちが、世界の人たちに自分の大切なものについて堂々と話をしたり、相手の大切なものについて聞き出したりするなどしてコミュニケーションを楽しみ、世界の人と豊かな人間関係を築こうとする人になってほしいと願い、本題材を閉じることとする。

参考文献：和泉伸一（2016）『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業　生徒の主体性を伸ばす英語の授業の提案』 株式会社アルク.
田尻悟郎（2009）『（英語）授業改革編』 教育出版.
三浦孝　中嶋洋一　池岡慎（2006）『ヒューマンな英語授業がしたい！かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする』 研究社.
三浦孝　弘山貞夫　中嶋洋一（2002）『だから英語は教育なんだ　心を育てる英語授業のアプローチ』研究社.
参考資料：10 Essentials GQ JAPAN『チャーリー・プース、超おすすめヘッドホンと曲作りの必需品』
youtu.be/IRKZeXIAgvc